

Initial closed trocar entry for laparoscopic surgery: Technique, umbilical cosmesis, and patient satisfaction

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂本, 愛子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002215

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2410 号

Initial closed trocar entry for laparoscopic surgery: Technique, umbilical cosmesis, and patient satisfaction

(当院の腹腔鏡手術における第一穿刺法：方法と臍創の美容性と患者満足度)

坂本 愛子 (さかもと あいこ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、腹腔鏡手術における臍の第一穿刺の方法と安全性を検討したものであり、さらには術後の臍のキズの美容性と患者満足度を評価したものである。合併症の反省から穿刺方法を変更した過程を述べており、その後の約 1 万例の腹腔鏡手術で後腹膜大血管損傷がゼロである事実から、現行の穿刺法を論文化した意義は大きいと思われる。

また、穿刺法に関する検討や論文は多く散見されるものの、その後の美容性や患者のキズに対する満足度を評価した論文は例がない。腹腔鏡手術は外科、小児外科、泌尿器科など多領域にわたり臍をポート部として利用することが多く、臨床的には術後の臍の変形を診ることは多い。臍の変形はマイナートラブルであるがゆえに問題と捉えられることが少ないが、美容という面からは、特に若い女性の手術が多い婦人科では検討意義が高いと考えられる。手術が安全に行われる事は当然ながら、臍の変形は患者にとっては手術自体の満足度につながる。本論文は、実際の発生頻度や変形タイプを検討したことで、今後の説明や対策につながるものと思われる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。